
	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（経営学ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	李 廷珉（い ちょんみん）		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位


ゼミのテーマ	企業と社会—社会における企業という視点の重要性を学ぶ—
ゼミの概要	<p>現在、株主価値の最大化が企業経営の大きな課題になってきている。株主を重視しない企業は、市場からの評価を得ることはできなくなっている。外国の年金基金や投資信託が所有する株式は東証一部でみると既に半数近くになっている。国際的に注目されている優良企業の場合は軒並み半分を超えている。それだけでなく、国内の投資家も株価の上昇や株主還元を要求して、企業経営に注文を出している。</p> <p>しかし、株主価値万能の風潮のなかで、従業員や地域社会、顧客や取引先などの利害関係者に対する配慮を忘れてはならない。現代の企業は、単なる私的利益を追求するメカニズムではなく、それを超えて社会的な存在であり、雇用の安定や財・サービスの供給に責任を負っている。さらに、地球環境問題への積極的な取り組みも欠かすことはできない。</p> <p>今後、企業が、こうした利害が錯綜する複雑な状況のなかで、自らの存在意義を確立し、成長・発展を遂げていくためには、自らの頭で課題を設定し、それを創造的に解決することが求められている。</p> <p>講義は、経営学の重要論点を抽出し、それらの論点のすべてに「問い」を立てて、それに対する「解」を探求するというスタイルをとって進める。今何が問題なのか、なぜ問題なのかという根源的な問いを発することなくして、本当の解決策は得られない。そもそも解は問いをめぐって生まれる。企業は、自らの存在を賭けて、本質的な問いを立てること、そしてその創造的な解を発見しなければならない。そのことを明らかにすることが経営学の役割かもしれない。</p>
ゼミの到達目標	社会の中での企業の役割や責任について理解を深め、その問題点を考えることができる。
授業時間外の学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日頃から新聞とその他の経済紙に目をとおすようにしておくこと。 2. 経済・経営専門書だけではなく、文学・哲学・歴史・宗教・生物などの科学関連書を1冊だけ選び、時間をかけてじっくり読んでおくこと。
履修条件	経済学と経営学の入門科目、そしてコンピューター入門科目の単位の履修が必要。
テキスト	寺本義也、川端大二他『マネジメントの論点』生産性出版、2000年。
参考文献・資料	藻利重隆『経営学の基礎（新訂版）』森山書店、1973年。
成績評価の方法	平常点（20%）、小テスト（30%）、期末試験（50%）を勘案し総合的に評価する。
オフィスアワー	毎週火曜日 13:00～14:30
学生へのメッセージ	<p>私たちのゼミナールでは、毎週報告者による発表を行います。皆がテキストの各章を振り分け、各自分担を決めます。報告に当てられた人は担当の章をレジュメーに作成し、授業の時間に分かりやすく説明し報告します。他の皆はその週の章を事前に読んできて、必ず「質問」を用意し、授業の時間に報告者に質問します。一つのテーマに関して皆がその意味を解釈し、問題点について論じ合うことが授業の目的となっています。</p> <p>また、私たちは、学園祭やソフトボール大会など、大学の行事の多くをゼミナール活動の一環として行っていますが、その際、私たちが大切にしている言葉は「明るく、楽しく、強く」です。つまり、「質実剛健」な人を目指します。「質」は質朴、「実」は誠実の意で、「質実」は飾り気がなく、真面目なこと。「剛健」は心や体が強く、たくましいことです。ですから、大学での学びを通じて、強くたくましい自分に変える。これが私たちのゼミナールの目標です。</p> <p>もし私たちのゼミナールに看板を掲げるとすれば、「自分を変えるための法則を見つけるゼミ」とも言いましょうか。</p> <p>勉強は大変厳しいかもしれませんが、志のある方ならどなたでも歓迎します。</p>

授業計画			
第1回	企業に理念やルール、あるいはガバナンスはなぜ必要なのか。	第17回	産学官連携はどこまで可能か。 それって地域活性化と結びづくか。
第2回	経営にグローバルスタンダードはあるか。 グローバルスタンダード経営のエッセンスとは何か。それはなぜ必要か。	第18回	知的資産って本当にあるか。 それを活用すれば本当に競争に勝てるか。 知識資産は競争力の源泉になるか。
第3回	規制緩和は良いことか、それとも悪いことか。 規制緩和と企業経営との関係は何か。	第19回	情報（革命）の発達によって組織は本当に要らなくなるか。
第4回	一体なぜコーポレートガバナンスが重要か。 日本とアメリカのコーポレートガバナンスの違いはあるか。それとも同じか。なぜそうなのか。	第20回	「過去」を捨てられた組織・企業は成功できるか —アサヒビールの事例にみる組織の過去①—
第5回	第1回から第4回までのまとめ 学内と学外のゼミナール大会参加のためのテーマ 選定やその準備①	第21回	「過去」を捨てられた組織・企業は成功できるか —アサヒビールの事例にみる組織の過去②—
第6回	本業の深耕か新規事業の展開か —経営戦略の核心—	第22回	第17回から第21回のまとめ 学内と学外のゼミナール大会参加のためのテーマ 選定やその準備④
第7回	グローバル化とローカル化の両立は可能か —日本企業の国際化戦略の転換—	第23回	事業を創造すると言うが、それはどういうことか —新製品開発は事業創造か？—
第8回	M&Aとアライアンスは戦略的に如何に活用できるか—要するに、外部資源の活用の戦略的展開をどのように成すか。	第24回	ベンチャーはなぜ失敗の例が多いか。
第9回	どのように競争すればよいか —競争の軸を如何に変えるか—	第25回	起業家は本当に教育で生み出せるか。
第10回	戦略・組織・人材のミスマッチをどのように克服するか—戦略(敵)経営の極意—	第26回	第23回から第25回のまとめ 学内と学外のゼミナール大会参加のためのテーマ 選定やその準備④
第11回	グループ経営の成果を最大化するにはどうしたらよいか—単体経営からグループ経営へ—	第27回	企業価値って何で決まるか。
第12回	第6回から第11回のまとめ 学内と学外のゼミナール大会参加のためのテーマ 選定やその準備②	第28回	企業評価は何に役立つか。評価の主体は誰か①。 —企業評価の方法の歴史的な変遷—
第13回	カスタマーの囲い込みは何処まで可能か —マーケティングの変遷と顧客の囲い込み—	第29回	企業評価は何に役立つか。評価の主体は誰か②。 —評価の主な重点はどう決まるか—
第14回	アウトソーシングって一体何か。 それをどう考えればよいか	第30回	なぜ情報開示は必要か —国際会計制度と経営学—
第15回	マーケティングと研究開発の統合は可能か。 なぜ統合しないといけないか。	第31回	第27回から第30回のまとめ 学内と学外のゼミナール大会参加のためのテーマ 選定やその準備④
第16回	前期のまとめ 学内と学外のゼミナール大会参加のためのテーマ 選定やその準備③	第32回	後期のまとめとテスト

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（財務会計論ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	國井法夫		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位


ゼミのテーマ	財務会計について会社法計算規則を中心に考える。
ゼミの概要	財務会計に関連する本を読み、毎回、担当者を決めて報告・質疑応答により理解を深めてゆく。
ゼミの到達目標	会社法の計算規則を理解する
授業時間外の学習	資格試験に挑戦してほしい。
履修条件	欠席しないこと。
テキスト	桜井久勝著『財務会計講義』（中央経済社）
参考文献・資料	特になし。
成績評価の方法	授業態度（30%）・学習姿勢（30%）・テスト等（40%）を参考に総合的に評価する。
オフィスアワー	水曜日5時間目
学生へのメッセージ	近年、学生諸君の学習姿勢を見ていると楽をしよう楽をしようという方向に進んでいるように見えます。自分の目指す目標に到達するためには努力なしには到達できません。目標に一步でも近づけるように日々精進してください。このような学習姿勢を評価したいと考えています。

授業計画			
第1回	自己紹介・ゼミの進め方	第17回	第8章有形固定資産と減価償却(1) 資産
第2回	第1章財務会計の機能と制度(1) 会計の意義	第18回	第8章有形固定資産と減価償却(2) 減価償却
第3回	第1章財務会計の機能と制度(2) 会計の機能	第19回	第9章無形固定資産と繰延資産(1) 知的財産
第4回	第2章利益計算の仕組み(1) 簿記の構造	第20回	第9章無形固定資産と繰延資産(2) 繰延資産
第5回	第2章利益計算の仕組み(2) 財務諸表	第21回	第10章負債(1) 範囲と区分
第6回	第3章会計理論と会計基準(1) 会計基準の設定	第22回	第10章負債(2) 引当金
第7回	第3章会計理論と会計基準(2) 一般原則	第23回	第11章株主資本と純資産(1) 構成
第8回	第4章利益測定と資産評価の基礎概念(1) 発生主義	第24回	第11章株主資本と純資産(2) 組織再編
第9回	第4章利益測定と資産評価の基礎概念(2) 資産評価	第25回	第12章財務諸表の作成と公開(1) 体系
第10回	第5章現金預金と有価証券(1) 現金と預金	第26回	第12章財務諸表の作成と公開(2) P/LとB/S
第11回	第5章現金預金と有価証券(2) 有価証券	第27回	第13章連結財務諸表(1) 公表制度
第12回	第6章売上高と売上債権(1) 収益認識基準	第28回	第13章連結財務諸表(2) 一般原則
第13回	第6章売上高と売上債権(2) 販売基準・生産基準	第29回	第13章連結財務諸表(3) 一般基準
第14回	第7章棚卸資産と売上原価(1) 範囲と区分	第30回	第14章外貨建取引等の換算(1) 国際化と会計
第15回	第7章棚卸資産と売上原価(2) 取得原価	第31回	第14章外貨建取引等の換算(2) 外貨建取引
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ (国際経済学ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	坂元 浩一		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限 6月第3週より開始	単位数	2単位


ゼミのテーマ	国際経済学を実践的に学ぶ
ゼミの概要	<p>本ゼミナールでは、国際経済学の基礎となるマクロ経済学などの基礎を学びながら、貿易、直接投資、金融投資など国際経済取引に関わる事象について、理論と政策を学びます。必要に応じて、歴史も扱います。具体的なデータを収集して、図表などを作ります。</p> <p>経済学の知識が不十分でも、わかりやすく教授するように努めます。学ぼうという意識を持っていることが重要です。</p> <p>講義形式と学生のグループワークからなります。後期では、円・ドルの為替レートを予測する円ダービーを行う予定です。また、必要に応じて、ディベート大会を行います。</p> <p>地域として、世界経済、地域経済の分析を元に、個別の外国経済を扱います。日本経済も分析して、新聞が理解できるようになります。</p>
ゼミの到達目標	貿易、直接投資、金融投資など国際経済取引に関わる事象をしっかりと理解できるようになります。
授業時間外の学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業前にはプリントの該当箇所必ず目を通しておいてください。 2. 前回講義に関する確認を行います。前回講義の復習をしっかりと行ってください。 3. 日頃から日本経済新聞やその他の経済誌に目を通すようにしてください。
履修条件	経済学の科目を履修している方が望ましいです。少なくとも経済について学ぼうという意識を持ってください。
テキスト	なし
参考文献・資料	坂元浩一『教養系の国際経済論—総合的理解から次の一步まで—』大学教育出版 (2012) 坂元浩一『国際協力マニュアル—発展途上国への実践的接近法—』頸草書房 (1996)
成績評価の方法	【小テスト(15%)、講義内発表(35%)、レポート(50%)】 ※出席回数が規定に満たない場合は試験をうけることができません。
オフィスアワー	毎週月曜日・火曜日14:40~16:40
学生へのメッセージ	<p>この4月に新任教員として就任しました。ゼミは、学生である皆さんと教員の相互作用で作っていくものです。新しいゼミの歴史を作るというつもりで参加しませんか。第一期生としてフレッシュにスタートしませんか。</p> <p>ゼミは大学生活においてもっとも重要な活動のひとつであると考えます。一人で学ぶのではなく、教員の指導に基づいて所属学生の皆と一緒に貴重な体験をする場です。皆で頑張った、楽しかった、という思い出をたくさん作りましょう。皆さんの人生にとってかけがえのない友人をたくさん作ってください。</p> <p>授業時間は当然しっかりとやりますが、時間外のインフォーマルな活動も重要です。たとえば、コンパ、合宿です。廉価にすることを基本として、頻度や内容などは皆さんに相談します。</p> <p>私は、これまで東京や静岡の大学で長く教鞭をとってきました。また、多くの海外の国を訪問したことがあります。発展途上国が中心であり、アフリカからアジアまでカバーしています。援助調査でフランスなど欧州にも行きます。また、日本や欧米の経済も扱います。私が訪問した国や町の様子を話しながら、これまでの長い経験を授業に生かします。</p>

授業計画（下記の前半の講義と後半のグループワークは交叉して進むことがあります）			
第1回	イントロダクション、全体の説明	第17回	グループワークの立案（役割分担）
第2回	国民所得統計Ⅰ（全体の構造）	第18回	基礎データ解析（国民所得統計）
第3回	国民所得統計Ⅱ（統計の事例）	第19回	基礎データ解析（国際収支などその他マクロ指標）
第4回	マクロ経済学の理論	第20回	経済分析（マクロ）
第5回	マクロ経済学の政策	第21回	経済分析（ミクロ）
第6回	国際収支Ⅰ（全体の構造）	第22回	中間発表（前半グループ）
第7回	国際収支Ⅱ（主要項目）	第23回	中間発表（後半グループ）
第8回	為替レートⅠ（理論）	第24回	データ再解析（国民所得統計）
第9回	為替レートⅡ（政策）	第25回	データ解析（国際収支など）
第10回	外国貿易Ⅰ（理論）	第26回	経済再分析（マクロ）
第11回	外国貿易Ⅱ（政策）	第27回	経済再分析（ミクロ）
第12回	直接投資Ⅰ（理論）	第28回	最終発表（前半グループ）
第13回	直接投資Ⅱ（政策）	第29回	最終発表（後半グループ）
第14回	金融投資Ⅰ（理論）	第30回	追加のエクササイズ（円ダービー）
第15回	金融投資Ⅱ（政策）	第31回	追加のエクササイズ（ディベート）
第16回	グループワークの立案（全体構成）	第32回	総括、必要に応じて小テスト

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（国際協力論ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	高千穂安長（Yasunaga TAKACHIHO）		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位


ゼミのテーマ	内なる国際化への貢献Ⅱ
ゼミの概要	<p>日本は加工貿易立国です。国としては、原材料を輸入し、加工・製品化し、輸出し、その代金で国民を幸せにすると同時に、原材料の輸入代金を確保するという方式は変わっていません。</p> <p>そのためには、原材料を供給してくれる国々との良好な関係は不可欠です。このため、これらの国々が困っていることを助けてあげる、日本の良さを分かってもらえるなどの活動は不可欠です。</p> <p>このような活動をどのように行うか、どんな行動が求められるか、その効果はどうかなどを明らかにし、その基本姿勢である「オーナーシップ」、「パートナーシップ」や行動に伴う副作用などを身につけ、地域活動、企業活動などで効果的な活動が行えるようにします。</p> <p>国際協力に関する知識の拡大とともに、具体的な事例として、地域開発(例えば少子高齢化、人口減少などで困っている秋田県)を考察する、現地調査を行うなど体験的な活動を行います。</p>
ゼミの到達目標	国際協力についての基礎的な知識を習得し、客観的な視点から自分の意見を言えるようになります。
授業時間外の学習	秋田県パワーアップ事業などの課題に取り組むとともに、ゼミ合宿を通じた体験的な活動を行い、客観的な視点を得られるようにします(ゼミ合宿については学生主体に実施案を作ります)。
履修条件	なし
テキスト	なし
参考文献・資料	外務省、JICAなどのホームページ(ゼミⅠと同様) トダロ他 2004 『開発経済学』国際協力出版会
成績評価の方法	平常点(50%)、討議参加度(20%)、作業参加度(30%)
オフィスアワー	火曜1限 ただし、在室時は原則対応します。
学生へのメッセージ	<p>社会では、色々な年齢、経歴、性格の人々が分業の利益を上げるべく、組織的な活動をしています。そのため、一定のルールに基づいた行動をしています。社会人に必要なこれらのルールを円滑にする「挨拶」、「時間」、「敬語」、「品質」について、下級生にも徹底できるように率先垂範します。</p> <p>これらは、みなさんと同じ年で高卒、短大卒で社会に入った人は既にスムーズにできています。2年後に同僚となった時に備えて確実に身につけておきます。</p>

授業計画			
第1回	イントロダクション ゼミ活動の方向性、学生の課業、成績評価など	第17回	ケース課題 1 TPP など国際協約の効果
第2回	企業の国際活動 1 海外直接投資	第18回	ケース課題 2 海外直接投資と空洞化
第3回	企業の国際活動 2 海外間接投資	第19回	ケース課題 3 海外直接投資と租税
第4回	企業の国際活動 3 最適調達、最適販売、最適納税	第20回	ケース課題 4 海外直接投資と産業廃棄物の国際的移動
第5回	企業の国際活動 4 多国籍企業の状況	第21回	ケース課題 5 海外直接投資とラムサール条約
第6回	企業の国際活動 5 国際要員の役割(内なる国際化)	第22回	ケース課題 6 途上国地雷除去と武器輸出禁止
第7回	企業の国際活動 6 国際要員の育成	第23回	ケース課題 7 チャリティとレントシーキング
第8回	企業の国際活動 7 現地化	第24回	ケース課題 8 生活と児童労働
第9回	企業の国際活動 8 地域貢献	第25回	ケース課題 9 生活と尊厳
第10回	自治体の国際活動 1 必要性	第26回	ケース課題 10 生活と環境
第11回	自治体の国際活動 2 内なる国際化(インフラ整備)	第27回	ケース課題 11 生活と教育
第12回	自治体の国際活動 3 内なる国際化(現在の住民の国際化)	第28回	ケース課題 12 生活と温暖化
第13回	自治体の国際活動 4 内なる国際化(将来の住民の国際化)	第29回	ケース課題 13 生活と格差(ローレンツ曲線、ジニ係数)
第14回	自治体の国際活動 5 内なる国際化(交流促進組織)	第30回	ケース課題 14 経済成長の諸課題(離陸、中進国のワナ)
第15回	自治体の国際活動 6 内なる国際化(交流促進)	第31回	ケース課題 15 中央政府と地方政府、住民
第16回	前半課題のまとめ	第32回	総復習

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（地域政策論ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	野口 秀行		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位

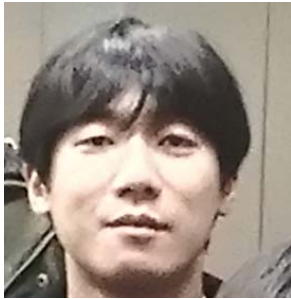
ゼミのテーマ	多様なアプローチによる地域経済の活性化
ゼミの概要	ゼミ生が中心となり研究テーマを絞り、自主的に運営して行くことにしています。ゼミナールⅡではパワーアップ事業及び北海道東北ブロックゼミナール大会への参加を目標にします。 ゼミ生相互のディスカッションにより研究の深化とともに、実社会で必要とされるコミュニケーション能力の強化とディベートの実践により社会人を滋養して行く方針ですが、自身で強い問題意識をもって、社会を分析する能力、時代の先を読み解く能力を身に付けて欲しいと思っています。
ゼミの到達目標	地域活性化のための政策と地域づくりの手法の習得
授業時間外の学習	秋田駅周辺の市街地再開発業・田沢湖のわらび座・小坂町の康楽館などを視察
履修条件	地域づくり論や観光経済学の履修経験者
テキスト	プリントおよび指定する課題図書
参考文献・資料	落合陽三「日本再興」、野口秀行「地方創生」
成績評価の方法	提出したレポートの評価(50%)及び報告の対応(50%)
オフィスアワー	火曜日及び水曜日
学生へのメッセージ	<p>少子高齢化が進み地方経済は疲弊しています。しかし、そうした中で、いま地方は座して死を待つのか、果敢に挑戦して新たに活路を見出すのかが問われているのだとも言えます。アベノミクスの総仕上げとしても、地方創生に向けた地方自治体の意識改革や地方の中小企業の生産性向上が、最大の課題となっています。安倍政権は、そのための制度改革を着実に推し進めていると言えるでしょうが、社会がそれに追いついていないのが実情です。</p> <p>加えて世界で進行しつつある第4次産業革命（IoT（もののインターネット）、BD（ビッグデータ）、AI（人工知能））の覇権をどの国が掴むのかも注目されます。その中で、地方の行政や企業の第4次産業革命への対処と進展著しいICTの活用による地域活性化策を考察して行きたいと思っています。</p> <p>従来とは異なり地方活性化を目的とするハンズファンドが登場したり、投資家によるソーシャルインパクト債の発行や仮想通貨のシステムを利用したICO（イニシアティブ・コイン・オフリング）など学ぶべきことが増えるとともに、多様な知識と仕組みの理解が求められています。</p>

授業計画			
第1回	北海道東北ブロック大会の研究テーマの決定	第17回	パワーアップ事業テーマの決定
第2回	課題図書を選定および参考資料に関するディスカッションと各自の担当分野の決定	第18回	課題図書を選定および参考資料に関するディスカッションと各自の担当分野の決定
第3回	課題図書・参考資料の解説	第19回	課題図書・資料の解説
第4回	レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション①	第20回	レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション①
第5回	レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション②	第21回	レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション②
第6回	レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション③	第22回	レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション③
第7回	レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション④	第23回	レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション④
第8回	レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション⑤	第24回	レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション⑤
第9回	レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション⑥	第25回	レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション⑥
第10回	レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション⑦	第26回	レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション⑦
第11回	レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション⑧	第27回	レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション⑧
第12回	レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション⑨	第28回	レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション⑨
第13回	総括レポート作成①	第29回	総括レポート作成①
第14回	総括レポート作成②	第30回	総括レポート作成②
第15回	総括レポート作成③	第31回	総括レポート作成③
第16回	総括レポートの評価と夏季休暇の課題図書を選定	第32回	総括レポートの評価と春季休暇の課題図書を選定

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（環境学ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	村中 孝司（むらなか たかし）		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位


ゼミのテーマ	<p>1. 自然環境の保全と人間社会との関係を考える。</p> <p>2. 農業・林業など、様々な産業から環境問題を考える。</p>
ゼミの概要	<p>環境学ゼミナールでは、地球環境の保全を、自然環境と人間社会の双方の立場から考え、持続可能な社会の構築を科学的に考えることを目標にしています。さまざまな情報を収集、分析し、自然や社会における問題を発見し、解決に導く勉強を行います。また、フィールドワークを重視しています。座学の勉強だけでは、本質的な問題を発見することは難しいからです。フィールドワークによって自然界や社会における観察眼が向上し、問題を見つけ出す力を養成します。</p> <p>ゼミの内容は、①専門書輪読、②研究活動の2つとなっています。毎週1回のゼミの時間帯には、輪読や研究に沿った発表と議論を中心に行います。①輪読では、環境学、農業、自然風景などの基本的知識と考え方を身につける勉強を行います。3年生のゼミでは、植田和弘・大塚直『環境と社会』を全員で読み、内容を理解します。環境問題と人間社会との関わり、環境評価など、社会科学的な視点から環境問題を説明した教科書です。また、②研究活動では、自主研究テーマを各自で設定し、年度末までに10ページ程度の自主研究レポートを作成します。研究レポートは、教員が何度も添削し、質の高い文章表現ができるように指導します。なお、研究テーマは、環境学を土台としたテーマに対し、各人が研究に取り組んだ成果です。これは、卒業論文として完成させるための準備として位置づけられます。3年生のゼミは、学問の入り口から自身の関心事を鳥瞰し、どのようなテーマに取り組むのかをよく考える期間となります。</p>
ゼミの到達目標	<p>農と食に関する問題、エネルギー問題、生物多様性に関する問題など、多様な視点から環境や農業・林業に関するテーマを調査・議論し、環境に対する理解を深めます。</p> <p>ゼミは学生の皆さんが作りあげることが基本と考えていますので、教員が教壇に立って講義を行うことはあまりありません。他のメンバーの発表をよく聴き、学び、質問や意見を述べる力を養ってください。また、メンバー相互の議論によって知恵と理解力を高め、教員に立ち向かってほしいと思っています。</p>
授業時間外の学習	<p>図書館や自宅では本や論文を読み、知識や文章の書き方、説明の方法を学んでください。ただ漠然と日常を過ごすのではなく、どこかに興味深い問題が転がっていないか、探索する眼を養ってください。あらゆる場所に、興味深いテーマは落ちています。</p>
履修条件	<p>特になし。なお、自然科学概論Ⅰ・Ⅱ、地球環境学を履修しているか、もしくは同時に履修することを推奨します。</p>
テキスト	<p>植田和弘・大塚直『新訂 環境と社会』放送大学教材 （入手不可能の場合は、第1回のゼミで相談します）</p>
参考文献・資料	<p>ゼミナール中に紹介します。</p>
成績評価の方法	<p>輪読(30%)、自主研究およびゼミナール全体での共同研究(50%)、定期試験(20%) 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) また、自主研究またはグループ研究の成果に対し、研究発表会での発表や論文コンクールへの応募を推奨しています。</p>
オフィスアワー	<p>火曜日 14:40～17:10、水曜日 16:20～17:10 ほか随時。</p>
学生へのメッセージ	<p>大学は学問に取り組むところです。学問に対して真剣に取り組むのならば、どのようなテーマでもよいと思います。自信を持って他者に自慢できる研究を行ってほしいと願っています。</p> <p>ゼミナール研修会（夏期）は、宿泊で県外の景勝地へ行きます。</p> <p>環境学ゼミナールの卒業生は、食品、教育、農業、人材派遣、郵便事業、販売（小売）、運輸等、さまざまな業種へ就職していますので、多様な職種・業種への支援を行います。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス ゼミナールでの取組概要、教科書紹介 1年間の目標設定	第17回	後期ガイダンス 目標達成度の確認
第2回	フィールドワーク① 自然・社会現象を観察・記録する	第18回	フィールドワーク⑥ フィールドワークの実践
第3回	フィールドワーク② 自然・社会現象から問題を見出す 「問題」とは何か	第19回	自主研究③ 論文紹介
第4回	フィールドワーク③ 資料や文献に学ぶ 文献の中から問題を発見する	第20回	輪読⑧ 「第8章 環境と経済の両立から」
第5回	輪読① 「第1章 環境問題とは何か」	第21回	輪読⑨ 「第9章 環境税」
第6回	輪読② 「第2章 環境問題の歴史」	第22回	輪読⑩ 「第10章 環境とエネルギーの経済学」
第7回	フィールドワーク④ 問題を解決に導くための方法を考える 「仮説」の発見	第23回	自主研究④ 自主研究中間報告、討議
第8回	輪読③ 「第3章 環境問題－地球環境問題－」	第24回	輪読⑪ 「第11章 環境における法の役割」
第9回	輪読④ 「第4章 環境問題と経済学」	第25回	輪読⑫ 「第12章 環境基本法と環境法の理念・原則」
第10回	フィールドワーク⑤ 問題の本質を見極める 問題解決に向けて必要な観察とは何か	第26回	フィールドワーク⑦ 観察力の育成
第11回	輪読⑤ 「第5章 環境の経済評価と価値」	第27回	自主研究⑥ 自主研究に関する論文指導
第12回	自主研究① 自主研究レポートについて レポート・論文の執筆手順と方法	第28回	自主研究⑦ 研究倫理
第13回	輪読⑥ 「第6章 環境政策の目的・目標と手段」	第29回	自主研究⑧ 自主研究成果報告（グループA）
第14回	輪読⑦ 「第7章 気候変動問題と炭素経済」	第30回	自主研究⑨ 自主研究成果報告（グループB）
第15回	自主研究② 専門書紹介	第31回	自主研究⑩ 自主研究成果報告（グループC）
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（金融論ゼミナールⅡ）		
	ゼミ担当者名	山本 俊		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位


ゼミのテーマ	<ul style="list-style-type: none"> 銀行などの金融関連分野への就職を念頭に、「考え抜く力」を養成します。 経済分野、特に、金融や地域経済を中心とした課題研究学習を実践します。
ゼミの概要	<p>みなさんは、どんなことなら頑張ることが出来ますか。それは好きなこと、関心のあることだと思います。だからこそ、金融論ゼミナールでは、あなたの将来の希望進路や、あなたの関心のあるテーマをとことん大切にします。そして「これだ！！」と思えるテーマを見つけたら、大きく3つの研究学習を通じて、「考える力」を身に付け、「頼れる自分」になって欲しいと思います。</p> <p>第1は、2年次で中心となる学習であり、「これだ！！」と思うテーマに関する教科書や論文の中で、最も代表的なもの、あるいは「これが自分のテーマだ」、「勉強したいことに一番近い」と思うものを見つけ、熟読し、分からないことを一つひとつ調べ、理解していくことです。そうすれば、そのテーマの中に、より興味深い部分を見つけることができます。それが「あなたを頼りがいのある自分」にしてくれる成長の種、すなわち研究課題となるのです。</p> <p>第2は、3年次で中心となる学習であり、研究課題に対する自分なりの答えを見つけ出すことです。ここでは、授業で学習した広範な知識や見方があなたをサポートしてくれます。さらに、全体像を見渡す指導教員と探究のキャッチボールを繰り返すことで、自ずと成果はまとまり、それはあなたの自己評価を高めてくれるはずです。ここでは仲間との協働や勉強会の楽しみにも気付いて欲しい。</p> <p>第3は、3年次または4年次で中心となる学習であり、課題研究の成果をまとめ、学内外のゼミナール大会等に挑戦することです。こうした大会に申込み、期限を設けることが、成果を挙げるための良い仕組みとなります。その期限は指導教員をも拘束し、学生と教員を目標に向けて努力させます。また大会で、好成績を挙げるには、工夫が必要です。そこで、あなたらしさを存分に発揮して下さい。こうした研究学習で培われた「考える力」や「大会への出場経験」は就職活動でも、社会人になってからもあなたを力強く助けてくれるはずです。</p>
ゼミの到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 2年生では、研究学習成果の学内での単独報告または学外でのグループ報告を目標とします。
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> 各回のゼミナールは報告の場であり、課外学習が基本となります。
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、現代ファイナンス論Ⅰ・Ⅱ、経済データ解析論、金融機関論を履修済みであることが望ましい。望ましいのであって、厳守ではありません。
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 事前に読むべき先行研究をアナウンスするので読み込んでください。
参考文献・資料	<ul style="list-style-type: none"> オリジナルの動画教材やプリントを必要に応じて提供します。
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験：20%、ゼミ内または学内外の報告会への参加状況：80%
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> 毎週水曜日、木曜日の4限、5限（研究室在室時は基本的に対応します）
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 大学生活で何を学んだのか？何を修めたのか？それは永久に問われます。実際、1年後に迫った就職活動では、履歴書の1番上に「ゼミナールで学習したこと」という質問があるほどです。だからこそ、みんなには大会等に出場し、自分を自分で追い込み、本気になって欲しい。 ゼミ旅行にも行きましょう。ここ数年は函館や青森に2泊3日で行っています。 例年、金融機関等への就職を希望する学生が多く選択してくれます。そうした先輩は秋田県の地方銀行や協同組織金融機関、信用保証協会、日本銀行などで活躍しています。同じ志を持った者同士で切磋琢磨できるのも金融論ゼミナールの魅力の一つです。また、そうした職場で、実際に活躍している先輩とのネットワーク創りも応援して行きます。

授業計画			
第1回	テーマ設定の再検討① これが最も重要！	第17回	実践報告1回目 グループ1
第2回	テーマ設定の再検討② 将来との関連性と意欲！	第18回	実践報告1回目 グループ2
第3回	研究学習の計画	第19回	実践報告1回目 グループ3
第4回	回帰分析を用いた先行研究① 株価理論の妥当性	第20回	実践報告1回目 グループ4
第5回	回帰分析を用いた先行研究② 銀行役員の役割	第21回	実践報告2回目 グループ1
第6回	DEAを用いた先行研究① 地域銀行の効率性 ※DEAとは効率性の計測技法であり、その理論やソフトの使用法も説明します。	第22回	実践報告2回目 グループ2
第7回	DEAを用いた先行研究② 地方自治体の効率性 ※DEAとは効率性の計測技法であり、その理論やソフトの使用法も説明します。	第23回	実践報告2回目 グループ3
第8回	DEAを用いた先行研究③ 銀行効率性の時系列分析 ※DEAとは効率性の計測技法であり、その理論やソフトの使用法も説明します。	第24回	実践報告2回目 グループ4
第9回	IO表を用いた先行研究① ノンサーベイ法の検討 ※IO表とは産業連関表であり、その理論や活用方法も説明します。	第25回	実践報告3回目 グループ1
第10回	IO表を用いた先行研究② BB新スタジアムの波及効果 ※IO表とは産業連関表であり、その理論や活用方法も説明します。	第26回	実践報告3回目 グループ2
第11回	IO表を用いた先行研究③ 県内祭りの波及効果 ※IO表とは産業連関表であり、その理論や活用方法も説明します。	第27回	実践報告3回目 グループ3
第12回	人口推計を用いた先行研究① 秋田市の100年後 ※人口推計では、コーホート要因法を取り上げ、その理論と活用方法も説明します。	第28回	実践報告3回目 グループ4
第13回	人口推計を用いた先行研究② 生き残る金融機関 ※人口推計では、コーホート要因法を取り上げ、その理論と活用方法も説明します。	第29回	実践報告を終えて、課題と成果
第14回	人口推計を用いた先行研究③ 破綻する金融機関 ※人口推計では、コーホート要因法を取り上げ、その理論と活用方法も説明します。	第30回	課題研究学習の成果を卒業論文にまとめる
第15回	基準化を用いた先行研究 金融機関の問題改善指数	第31回	定期試験
第16回	夏休みの学習会について	第32回	

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ (刑法ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	秋山 栄一		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日4限	単位数	2単位


ゼミのテーマ	刑法理論の探求
ゼミの概要	<p>本ゼミナールでは、「刑法入門」、「刑法総論」および「刑法各論」の講義を前提として、刑法総論・各論の重要問題の学説、判例を検討する。ゼミの前半では、対話形式で、総論及び各論の内容を概観しながら、学生自身が興味・関心をもつテーマを選択していく。その後、テーマに沿った主要な判例・裁判例を順次報告・発表していき、皆で検討するという形式を予定している。ただし、後述の授業計画は、学生の理解度・履修状況により、変更されることがある。</p>
ゼミの到達目標	<p>学生各々が興味と関心をもった刑法学上の論点・テーマについて、重要判例・裁判例を中心にまとめ、個別報告及び皆での検討ができるようになる。 ゼミ論文の準備ができる。 刑法学を手段として、他者の存在を自覚し、物事に対する深い洞察力とそれに対する的確な判断力を養う素地を養う。</p>
授業時間外の学習	<p>日頃、マスコミなどを通じて報道される社会の現象（特に、法律問題）に関心をもつこと。 各々設定したテーマについて、図書館等を活用し、適宜調べ、まとめるために、ゼミ以外の時間の準備を怠らないこと。</p>
履修条件	<p>刑法学に興味と関心をもっていると同時に、ゼミのルールを遵守できること。 刑法入門、刑法総論、刑法各論が履修済みであること、刑事訴訟法、刑事政策を履修していること。</p>
テキスト	<p>山口厚・佐伯仁志編『刑法判例百選Ⅰ〔第7版〕』有斐閣 2014、山口厚・佐伯仁志編『刑法判例百選Ⅱ〔第7版〕』有斐閣 2014 等。その他学生のテーマに従って、適宜指示する。</p>
参考文献・資料	<p>例えば、大塚仁・河上和雄他編 大コンメンタール刑法〔第3版〕1巻～ 青林書院、西田典之、山口厚他編 注釈刑法〔第2版〕1巻～ 有斐閣、前田雅英他編 条解刑法〔第3版〕弘文堂、その他学生のテーマに従って、適宜指示する。</p>
成績評価の方法	<p>定期試験 50%、報告・姿勢 50%の割合で厳正に評価する。</p>
オフィスアワー	<p>原則として、火曜1限 (9:00～10:30)・火曜4限 (14:40～16:10) ※ 事前に連絡をもらえるとありがたい</p>
学生へのメッセージ	<p>ゼミナールⅡは、いわば、学生が本格的に学問を行うスタートに当たるものです。知的世界の深みの一端をとともに感じることができれば幸いです。また、自分のテーマに興味と関心を持つことは当然のことですが、自分以外のゼミのメンバーのテーマにも関心をもつことが重要です。それが自分のテーマの理解にも役立つことは間違いないからです。ゼミの仲間とともに、多くの楽しみを見つけることもできればと考えています。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス、刑法の基礎の確認	第17回	各々のテーマについて学生個別報告・検討③-1
第2回	構成要件該当性の "	第18回	" ③-2
第3回	違法性の "	第19回	" ③-3
第4回	責任の "	第20回	" ③-4
第5回	共犯の "	第21回	" ③-5
第6回	未遂の "	第22回	" ③-6
第7回	個人的法益に対する罪の "	第23回	フィードバック③
第8回	社会的法益に対する罪の "	第24回	各々のテーマについて学生個別報告・検討④-1
第9回	国家的法益に対する罪の "	第25回	" ④-2
第10回	学生のテーマの設定の確認、 各々のテーマについて学生個別報告・検討②-1	第26回	" ④-3
第11回	" ②-1	第27回	" ④-4
第12回	" ②-2	第28回	" ④-5
第13回	" ②-3	第29回	" ④-6
第14回	" ②-4	第30回	" ④-7
第15回	" ②-5	第31回	まとめの提出、フィードバック④
第16回	フィードバック②	第32回	試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（刑事法ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	岡崎 頌平		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日4限	単位数	2単位


ゼミのテーマ	事例で学ぶ刑事法
ゼミの概要	本ゼミナールでは、事例演習を通じて、刑事法（刑法・刑事訴訟法）の理解をより深めます。もっとも、本ゼミナール担当者の専門が刑法であることから、主として刑法に関する事例を多く取り扱う予定です。また、本ゼミナールでは、事例演習を通じて、受講者に刑法・刑事訴訟法の重要問題から関心のあるテーマを1つ選択して、ゼミナールⅢで完成させるゼミ論文の土台となるゼミレポートを提出してもらう予定です（成績評価の方法を確認すること）。
ゼミの到達目標	受講者は、本ゼミナールを履修することによって、刑法・刑事訴訟法に関する基礎的知識に基づいて、自ら選択した事例について考察し、以下のことができるようになる。 1) 刑法の重要問題に関する判例・学説の整理・説明 2) 刑事訴訟法の重要問題に関する判例・学説の整理・説明
授業時間外の学習	・教科書等を用いて、自ら選択した事例に関する報告レジュメを作成すること。 ・新聞等で刑事法に関する問題に触れるなどして、刑事法への関心を高めること。
履修条件	刑法入門・刑法総論・刑法各論の単位を修得済みであること。 刑事訴訟法・刑事政策を同時に履修すること。
テキスト	島田聡一郎・小林憲太郎『事例から刑法を考える[第3版]』有斐閣（2014） 長沼範良ほか『演習刑事訴訟法』有斐閣（2005）
参考文献・資料	塩見淳『刑法の道しるべ』有斐閣（2015）；今井猛嘉ほか『刑法総論[第2版]』『刑法各論[第2版]』有斐閣（2012・2013）；松宮孝明『刑法総論講義[第5版]』『刑法各論講義[第4版]』成文堂（2017・2016）；宇藤崇ほか『刑事訴訟法[第2版]』有斐閣（2018）；酒巻匡『刑事訴訟法』有斐閣（2015）；安富潔『刑事訴訟法[第2版]』三省堂（2013）；三井誠『刑事手続法(1)新版』『刑事手続法2』『刑事手続法3』有斐閣（1997・2003・2004）；古江頼隆『事例演習刑事訴訟法[第2版]』有斐閣（2016）
成績評価の方法	ゼミレポート50%、授業への参加状況（報告・質疑応答など）30%、定期試験20% ※ゼミレポートについては、1枚あたり40字×30行の用紙設定（A4サイズ）で最低6枚以上のものの提出を求める予定です。
オフィスアワー	火曜日14：40～16：10；金曜日9：30～10：30
学生へのメッセージ	法学を学ぶ際に、出発点となるのは条文です。したがって、あまりにも当然のことを述べるようになりますが、法律学科の法律系の専門科目と同様に六法を必ず持参してください。その際に、重要なことは、コンパクトなものでも構わないので、最新のものであるかどうかです。周知のように、昨年（2017年）、刑法の性犯罪処罰規定が大きく改正されました。まず、この改正に対応した六法を持っていることを確認してください。 次に、この授業は、単一方向のものではなく、双方向のものになりますので、積極的な発言を期待しています。 最後に、これも当然のことを述べるようになりますが、欠席・遅刻をする場合には必ず連絡するようにしてください。無断欠席等は厳禁です（なお、無断欠席等があった場合、その事情によっては、それ以降の履修を認めないこともあり得ると、あらかじめお知らせしておきます）。

授業計画			
第1回	イントロダクション[講義の進め方など]	第17回	第3回事例報告①
第2回	第1回事例報告①	第18回	第3回事例報告②
第3回	第1回事例報告②	第19回	第3回判例報告③
第4回	第1回事例報告③	第20回	第3回判例報告④
第5回	第1回事例報告④	第21回	第3回判例報告⑤
第6回	第1回事例報告⑤	第22回	第3回判例報告⑥
第7回	第1回事例報告⑥	第23回	まとめ③
第8回	まとめ①	第24回	第4回事例報告①
第9回	第2回事例報告①	第25回	第4回事例報告②
第10回	第2回事例報告②	第26回	第4回事例報告③
第11回	第2回事例報告③	第27回	第4回事例報告④
第12回	第2回事例報告④	第28回	第4回事例報告⑤
第13回	第2回事例報告⑤	第29回	第4回事例報告⑥
第14回	第2回事例報告⑥	第30回	まとめ④
第15回	まとめ②	第31回	全体のまとめ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（民事手続法ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	川口 誠		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日4限	単位数	2単位


ゼミのテーマ	民事紛争解決制度に関する諸制度の理解、手続法の考え方の基本的理解
ゼミの概要	<p>ADR（裁判外紛争解決制度）など、民事訴訟制度と関連する諸制度を含めた民事の紛争解決制度全体の基本的理解、相互の連関の理解を進め、民事紛争解決制度のあるべき姿を考えることが、ゼミの目的です。訴訟そのものの理解だけではなく、訴訟を含む諸制度の基本的、総合的理解を目指すこととなります。</p> <p>事前規制型社会から事後審査型への移行は、紛争解決制度についても変革を求めています。従来にも増して、紛争解決制度のセーフティネットとしての役割が重視され、訴訟を含む各種の紛争解決制度の理解は、社会人にとってますます必要不可欠な知識となっています</p> <p>ゼミ員の分担でテーマについて順次検討を進めます。当番制で、それぞれテーマについて調査勉強し、報告をしてもらいます。その報告を基に議論をし、関連事項を学びながら、先へ進む方法で行いたいと思います。</p>
ゼミの到達目標	訴訟を含む民事紛争解決制度に関する諸制度が理解できるようになる。
授業時間外の学習	早い段階で、民事訴訟法の基本書を何度か速読、精読しておくこと。
履修条件	民法（特に財産法）の単位取得済み、民事訴訟法の講義を並行受講していることが望ましい。
テキスト	伊藤真他編『民事訴訟法の争点』（有斐閣・新法律学の争点シリーズ4）
参考文献・資料	適宜指摘する。
成績評価の方法	報告60%、期末試験30%に、授業参加・態度10%で、総合評価。
オフィスアワー	毎週火曜日 10:40-12:10、木曜 9:00-10:30
学生へのメッセージ	<p>民事訴訟法は、複雑・難解だと思われがちです。しかし、それまで学んできた実体法の発想を一旦白紙に戻して、現実を直視する発想で、訴訟を紛争解決のための1つのシステムととらえ、まずは基本構造・基本理念（森全体の構造、骨格、およびシステムの設計方針）をおさえ、その後細部（枝葉）や典型・通常とは違う流れ等々を検討する方法により、より容易に理解できるはずですよ。</p> <p>自分の担当テーマの調査、勉強を責任感をもってすること。報告が誤っていると、他のゼミ員に誤った情報を提供することになります。また、自分の担当テーマだけではなく、他のゼミ員の報告に、積極的に議論参加できるように、毎回のテーマについてしっかり予習してください。</p> <p>勉強以外のゼミのイベント（大学祭、懇親会など）に積極的に関わってください。アクティブな人がたくさんいるほどゼミは活発に、また楽しくなります。勉強と勉強以外のことを一緒に協力してすることの中から、お互いに信頼できる友人が見つかると思います。</p> <p>ゼミが勉学の切磋琢磨の場となるだけでなく、ゼミを通じてゼミ員相互の信頼を深め、卒業後も連絡を取り合う仲間を見つける場、機会となることができるとと思います。</p> <p>最後に、このゼミに限らず、ゼミは欠席しないこと。必ず電話、メールが届く、つまり連絡がとれるようにすること。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス	第17回	計画審理・争点整理
第2回	民事訴訟の目的と機能	第18回	適時提出主義
第3回	訴訟と非訟	第19回	主要事実と間接事実の区別
第4回	仲裁の争点・ADR	第20回	自由心証主義
第5回	管轄の争点・移送制度の問題	第21回	証明責任の意義と作用・証明責任の分配
第6回	裁判官の除斥と忌避	第22回	文書提出義務
第7回	当事者の確定	第23回	証拠保全
第8回	当事者能力・選定当事者	第24回	既判力の本質と作用・既判力の客観的範囲
第9回	弁護士強制制度・弁護士代理の原則	第25回	訴えの取下げと請求の放棄・認諾
第10回	二重訴訟の範囲と効果	第26回	訴訟上の和解の意義・訴訟上の和解の効力
第11回	確認の利益	第27回	上訴制度の目的・再審事由と再審期間
第12回	訴訟物論争・訴訟物概念の機能	第28回	通常共同訴訟と必要的共同訴訟との境界
第13回	一部請求と残部請求	第29回	補助参加の利益・補助参加人の地位
第14回	筆界確定訴訟	第30回	独立当事者参加の訴訟構造と要件・手続
第15回	裁判所と当事者の役割分担	第31回	定期試験
第16回	弁論主義		

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（安全保障論ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	佐藤克枝		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位


ゼミのテーマ	安全保障について学び、問題点となる事項について研究・討議する。
ゼミの概要	<p>日本の安全保障について 国際環境と国内政治がどのようにかかわってきたのかにも着目しつつ学んでいきます。</p> <p>世界の各国は独自の安全保障政策や、安全保障組織により、自国の主権と独立を確保しています。現在の国際情勢、とりわけ軍事情勢は厳しい状況にあります。そのような中で、各国はそれぞれの防衛努力により、周辺諸国と連携するとともに、国連の集団的安全保障体制の下で平和と安全を維持しているところです。</p> <p>前半は現在の平和安全保障体制の下で日本がどのような安全保障政策をとっているのか、国連の集団安全保障体制、日米及び関係各国との安全保障体制についても解説していきます。</p> <p>後半は、重要問題から関心のあるテーマを1つ選択し、ゼミナールⅢで行うゼミ論文の前提となるゼミレポートを作成し、安全保障についてさらに理解を深めていきます。</p>
ゼミの到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 国家の成立要件（住民・領土・政府・外交能力）を説明できる。 2 領域及び日本の領土問題の概要を説明できる。 3 防衛政策の基本（専守防衛）、日米安全保障体制が説明できる。 4 国家安全保障戦略、事態対処法制、平和安全法制の概要を説明できる。 5 国連の集団安全保障体制と集団的自衛権の差異を理解している。 6 武力攻撃事態への対処のための法律の概要を理解している。 7 国民保護についての国や自治体の取り組みについて説明できる。
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の安全保障政策に関するニュースに関心を持つこと。 ・国際的な軍事情勢、国際テロ、日本周辺的情勢に関心を持ち、国連や当事国の対処状況に関心を持つこと。
履修条件	<p>憲法入門、統治機構論、世界政治学、法律入門のいずれかを履修済みであること。</p> <p>国際法を同時履修することが望ましい。</p>
テキスト	授業中に指示する。
参考文献・資料	<p>防衛白書（平成29年度版）、外交青書（平成29年度版）、田村重信等『日本の防衛法制』（内外出版）、同『日本の防衛政策』（内外出版）、森本敏『日本の安全保障』（実務教育出版）、潮匡人『日本人が知らない安全保障学』（中公新書）、土田愛彦『防衛ってなに』（鷹書房弓プレス）</p>
成績評価の方法	授業への参加状況（報告・質疑応答など）60%、定期試験40%
オフィスアワー	火曜日 14:40～16:10 水曜日 14:40～16:10
学生へのメッセージ	<p>国際関係や国家としての安全保障のあり方、国民保護等に興味のある学生の積極的な参加を期待しています。</p> <p>学生の関心が早期に定まり、研究発表に入ることができるようにするため、前半はこれまで体系的に学んだことがない学生もいることを前提に授業を進めます。</p> <p>後期には、実際に安全保障に携わる防衛省及び国民保護計画策定の中心となる自治体の関係者をゲストスピーカーとして招聘して特別講義をして頂き、安全保障について、さらに理解を深めてもらう予定です。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス 安全保障の意義	第17回	学生による発表① 討議
第2回	面接 国家の成立要件、領域	第18回	学生による発表② 討議
第3回	領土問題	第19回	学生による発表③ 討議
第4回	防衛政策の基本①	第20回	トピック・まとめ
第5回	防衛政策の基本②	第21回	学生による発表④ 討議
第6回	防衛政策の方針	第22回	学生による発表⑤ 討議
第7回	政策決定機関	第23回	学生による発表⑥ 討議
第8回	治安維持と防衛の差異	第24回	トピック・まとめ
第9回	緊急事態対処時の行動及び権限	第25回	学生による発表⑦ 討議
第10回	武力攻撃事態における法体系	第26回	学生による発表⑧ 討議
第11回	国民保護法	第27回	学生による発表⑨ 討議
第12回	国際連合の主要機関及び役割	第28回	トピック・まとめ
第13回	紛争の平和的解決手段	第29回	学生による発表⑩ 討議
第14回	地域的安全保障体制	第30回	学生による発表⑪ 討議
第15回	国際平和協力活動	第31回	全体のまとめ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（公法（憲法・行政法））		
	ゼミ担当者名	佐藤 寛稔		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日4限	単位数	2単位


ゼミのテーマ	公法（憲法・行政法）判例研究
ゼミの概要	<p>憲法・行政法の主要な判例について研究します。</p> <p>具体的には1コマは以下のように進めます。①発表者の選んだ判例についての発表、②発表に対する討論、③理解度を試す問題演習（成績には反映しません）を行います。判例の選定に当たっては、各人に任せますが、多くの教科書や教材で扱われているような重要判例の中から選ぶことを原則とします。</p> <p>発表を担当する人は発表用レジュメ（A3用紙1枚裏表）を作ってもらい、それを使って、20分から30分程度の発表をしてもらいます。他の履修学生には毎回のテーマに関連するテキストとともに、関連判例や関連教材を事前に読んできた上で、発表者の発表内容について討論してもらいます。法律学には、数学や物理のような「正解」はありません。討論では、まずは、思い切って自分の考えを話してください。</p>
ゼミの到達目標	憲法・行政法の基本判例を読み、理解することができる。
授業時間外の学習	その回に扱う判例を読むことが求められます。
履修条件	過去の成績、所属学部・学科は一切問いませんが、「人権」「統治機構」「行政法総論」「行政法各論」を履修していると理解しやすいと思われます。それ以外では私から連絡があったときに必ず応答すること、学校行事、ゼミ行事への積極的な参加が求められます。また、ゼミは「学ぶ場」ですので、それにふさわしい整容を心がけられる人のみ履修を認めます。
テキスト	芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法（第6版）』（岩波書店） 藤田宙靖『行政法入門（第7版）』（有斐閣）
参考文献・資料	憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第6版）、行政判例百選Ⅰ・Ⅱ（第7版）その他、必要な文献を適宜指示します。
成績評価の方法	発表30%、討論の参加への積極性50%、学年末試験20% *発表をしなかった場合にはそのことのみによって不可とします。欠席回数が10回以上の者は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日9:00～10:30 水曜日9:00～10:30
学生へのメッセージ	<p>判例を読むことで、教科書の一般的・抽象的な説明の背後にある現実社会の生々しい事件が背景にあることがわかります。そのように具体的な事件を見ることで、私たちの目には「法」が社会で生きていることを認識できます。こうした「法の発見」を通じて法律学の楽しさを実感して欲しいと思います。</p> <p>また、公務員試験や国家試験でも判例理解は不可欠です。しかし、個人で判例の学習をするには様々な困難が伴います。このゼミを通じて、難攻不落の公法判例を攻略する手がかりを掴みましょう。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス	第17回	面談・意識調査
第2回	面談・意識調査	第18回	行政判例研究
第3回	資料収集の方法	第19回	行政判例研究
第4回	教員による発表デモ	第20回	行政判例研究
第5回	憲法判例研究	第21回	行政判例研究
第6回	憲法判例研究	第22回	行政判例研究
第7回	憲法判例研究	第23回	行政判例研究
第8回	憲法判例研究	第24回	行政判例研究
第9回	憲法反映研究	第25回	行政判例研究
第10回	憲法判例研究	第26回	行政判例研究
第11回	憲法判例研究	第27回	行政判例研究
第12回	憲法判例研究	第28回	行政判例研究
第13回	憲法判例研究	第29回	行政判例研究
第14回	憲法判例研究	第30回	行政判例研究
第15回	憲法判例研究	第31回	まとめ・面談
第16回	憲法判例研究	第32回	学年末テスト

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（民法ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	高橋佑輔		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日4限	単位数	2単位


ゼミのテーマ	民法の知識を修得するとともに、具体的な問題の解決策を考える能力を育む。
ゼミの概要	<p>判例等の事例を題材として、報告担当者の発表をベースに事例研究を行い、また、関連する法分野の知識の確認を行う。報告担当者以外の参加者にも発言を求め（指名する）、担当教員との対話方式でゼミナールを進行する。</p> <p>ゼミナールⅡ（3年次）は、年度末までに履修者全員が公務員試験（国家一般職、地方上級）で求められる程度の民法知識を習得し、単独で民法に関する研究・報告を行うことができることを目標とする。</p> <p><u>本ゼミナールでは、基礎知識の確認のため月1回程度学習到達度確認テストを実施します。</u></p> <p><u>履修人数により異なりますが、履修者全員が少なくとも年2回以上（通常4回程度）ゼミナール内で発表を担当することになります。また、原則として発表準備はゼミナール時間外に行ってもらいます（発表内容等に関する教員への相談は歓迎します）。</u></p>
ゼミの到達目標	民法の知識を修得するとともに、具体的な問題の解決策を考える能力を育む。公務員試験等で問われる民法の知識を確実に身に付ける。
授業時間外の学習	ゼミナールで扱った範囲について、問題演習等を通じて復習すること。報告担当者は、報告において引用する資料等も確認して報告準備を行うこと。
履修条件	民法入門、民法総則、物権法履修程度の民法知識があること（実際に履修しているかは問わない）。債権総論、債権各論、親族・相続の各科目を卒業までに履修すること。
テキスト	履修者と相談して指定する。
参考文献・資料	適宜指示する。
成績評価の方法	ゼミナール内での報告（75%）と試験結果（25%）に学習到達度確認テスト結果等を加味して評価する。
オフィスアワー	火曜10:40～12:10 金曜13:00～14:30
学生へのメッセージ	<p>民法を学ぶ意欲のある学生の参加を歓迎します。参加希望者は毎回 <u>必ず</u> 六法、テキストを手元に準備するようにしてください。</p> <p><u>毎回出席することが当然ですので、理由なく欠席した場合にはレポート等の提出を求めます。</u></p>

授業計画			
第1回	ガイダンス	第17回	学習状況の確認・事例検討
第2回	事例検討	第18回	事例検討
第3回	事例検討	第19回	事例検討
第4回	発表準備・調査（図書館での判例DB検索など）	第20回	学習到達度確認テスト⑤ 発表準備・調査・面談
第5回	学習到達度確認テスト① 発表準備・調査・面談（発表準備状況確認）	第21回	発表準備・調査・面談
第6回	事例検討	第22回	事例検討
第7回	発表・事例検討	第23回	発表・事例検討
第8回	発表・事例検討	第24回	学習到達度確認テスト⑥ 発表・事例検討
第9回	学習到達度確認テスト② 発表・事例検討	第25回	発表・事例検討
第10回	発表・事例検討	第26回	発表・事例検討
第11回	発表・事例検討	第27回	発表・事例検討
第12回	発表・事例検討	第28回	学習到達度確認テスト⑦ 発表・事例検討
第13回	学習到達度確認テスト③ 発表・事例検討	第29回	発表・事例検討
第14回	事例検討	第30回	事例検討
第15回	前期のまとめ	第31回	後期のまとめ
第16回	学習到達度確認テスト④	第32回	期末試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（心理学ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	瀧澤 純（たきざわ じゅん）		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日4限	単位数	2単位


ゼミのテーマ	心理学の議論から学び、自分が感じた疑問に答えを出す。
ゼミの概要	前期はチームでゼミの仲間を対象にした実験を企画・実施する。後期は実験結果を分析し、個人で自身のテーマに基づいて論文を探し、概要を発表する。
ゼミの到達目標	心についての科学的思考力、社会問題の分析・解決能力を身につける。社会、人間、動物に関する心理について、実際に検証することができるようになる。
授業時間外の学習	時間外で課題に取り組む時間が多い。実験の準備や実施だけでなく、論文を探して読み、発表の準備を行うことに多くの時間を費やす必要がある。
履修条件	以下の①と②をともに満たすことが必要である。 ①ゼミを履修する時点で「心と行動Ⅰ、心と行動Ⅱ、人間行動学、スポーツ心理学、1年生ゼミナール（法律・観光）、専門ゼミナールⅠ（心理学）の6科目」から2科目以上の単位を取得していること ②ゼミの初回に出席すること。欠席する場合は、瀧澤まで事前に連絡すること
テキスト	使用しない。学生自身が、取り組むテーマに応じて資料を探すことが必要である。
参考文献・資料	高野陽太郎・岡隆（編）『心理学研究法 補訂版』（有斐閣、2017年）
成績評価の方法	定期試験 40%、提出物の内容評価 40%、取り組み姿勢 20%の割合で総合的に評価する。
オフィスアワー	月曜日の3時限（13:00から14:30）、金曜日の3時限（13:00から14:30）
学生へのメッセージ	このゼミでは、学ぶことに対する意欲と、その意欲を表す積極的な姿勢が必要になります。事前連絡なしでの欠席は認めません。 瀧澤ゼミ2年生から4年生での合同の合宿など、企画の運営を任せる場合があります。 このゼミの履修条件は、来年度以降は変わる可能性があります。

授業計画			
第1回	ガイダンス：ゼミの概要、学生自己紹介、教員自己紹介	第17回	データ分析
第2回	心理学の概要、教員の研究を説明	第18回	レポートの作成①
第3回	実験の特徴、調査との違い	第19回	レポートの作成②
第4回	実験を企画するために	第20回	レポートの作成③
第5回	実験の企画①：テーマ設定	第21回	論文の探し方
第6回	実験の企画②：時間や場所の設定	第22回	よい論文、悪い論文
第7回	実験の企画③：条件の統制	第23回	発表と議論①
第8回	実験案の投票、チーム作り	第24回	発表と議論②
第9回	実験の準備①：全体的な手続き	第25回	発表と議論③
第10回	実験の準備②：担当役割、段取り	第26回	発表と議論④
第11回	実験の準備③：予備日	第27回	論文のより発展的な探し方
第12回	実験の実施①：前半組	第28回	発表と議論⑤
第13回	実験の実施②：後半組	第29回	発表と議論⑥
第14回	実験の実施③：予備日	第30回	発表と議論⑦
第15回	データ入力	第31回	後期のまとめ
第16回	前期のまとめ	第32回	後期定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（観光学ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	井上 寛		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日4限	単位数	2単位


ゼミのテーマ	観光学を実践的に学ぼう
ゼミの概要	<p>2020年の東京オリンピック・パラリンピックをひかえ、社会全体が「観光」に大きな関心を寄せています。そして、政府は訪日外国人観光客数を4000万人にする目標を立てています。そして、政府は訪日外国人観光客数を4000万人にする目標を立てています。外国人観光客がたくさん日本に来て「お金儲け」ができれば、私たちは本当に幸せになれるのでしょうか？その部分も重要ではありますが、観光学はもっと深く、面白くて役に立つ学問です。</p> <p>これまでに講義やインターンシップなどの実習で学んだ観光学について、さらに実践的かつ深く学ぶのがこの「観光学ゼミナール」のテーマです。実践的に観光学を学び、卒業後に観光のプロフェッショナルを目指すためには、フィールドワークの「技」を実践から身につけることも重要です。観光地理や旅行業の資格にチャレンジすることも有効です。ですから、観光学ゼミナールでは、各自の興味・関心をもとに、メンバーで議論したうえで研究テーマを決定し、観光学の実践的グループ研究を1年かけて行います。前にも述べたように、観光学は実践的な学問ですので、自分から「アクション」することを重視したいと思います。ゼミ時間外に活動することもあります。積極的に参加する意欲のある学生の参加を期待します。</p>
ゼミの到達目標	実践的に観光学を学ぶ方法を理解することができる。
授業時間外の学習	ゼミ課題に対し主体的かつ真剣に取り組むこと。
履修条件	これまでに観光論入門Ⅰの単位を履修していること、または今年度履修すること。観光のプロフェッショナルを目指し、ゼミ行事に積極的に参加する意欲をもっていること。
テキスト	山下晋司編『観光学キーワード』有斐閣、2011年(観光論入門Ⅰで使用したテキスト)
参考文献・資料	ゼミナールの時間に適宜指示します。
成績評価の方法	定期試験(30%)・平常点(30%)・行事への参加(20%)・提出物(20%)
オフィスアワー	毎週月曜日 2時限(10:40~12:10) 毎週金曜日 3時限(13:00~14:30)
学生へのメッセージ	<p>ゼミ担当の井上寛は、学生時代「障害者・高齢者の旅行」という研究テーマに出会い、一貫して観光を学び続けています。</p> <p>観光学はとにかく「実践」することが重要ですが、そのベースとなる社会科学を深く学ぶことも重要です。みなさんの今後の人生の中で、「私は大学で実践的に観光学を学んだ!」と堂々と語れるように、学生時代より観光学を学んできた先輩として、一緒に学び続けていきたいと思えます。</p> <p>その「実践」のためには、観光学ゼミナールでは、課題や研究に関して、自分たちで考え企画し、実践することを重視します。そして、高杉祭をはじめ旅行やコンパなどのゼミ行事も、受け身ではなく積極的に参加するようにしてください。</p>

授業計画			
第1回	前期オリエンテーション	第17回	後期オリエンテーション
第2回	未来の目標を語ろう	第18回	研究課題中間報告Ⅰ
第3回	観光学の復習1	第19回	研究課題中間報告Ⅱ
第4回	観光学の復習2	第20回	データ集計の方法1
第5回	観光学の復習3	第21回	データ集計の方法2
第6回	研究課題ディスカッション1-1	第22回	観光学の理論を学ぶ1
第7回	研究課題ディスカッション1-2	第23回	観光学の理論を学ぶ2
第8回	研究課題ディスカッション1-3	第24回	観光学の理論を学ぶ3
第9回	研究課題ディスカッション1-4	第25回	研究課題ディスカッション2-1
第10回	ふりかえりⅠ	第26回	研究課題ディスカッション2-2
第11回	観光フィールドワークの方法1	第27回	研究課題ディスカッション2-3
第12回	観光フィールドワークの方法2	第28回	研究課題ディスカッション2-4
第13回	観光フィールドワークの方法3	第29回	研究発表Ⅰ
第14回	観光フィールドワークの方法4	第30回	研究発表Ⅱ
第15回	ふりかえりⅡ・反省会	第31回	ふりかえりⅢ・反省会
第16回	前期試験	第32回	後期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（情報システム管理論ゼミナールⅡ）		
	ゼミ担当者名	瀧森 威		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位


ゼミのテーマ	最新の情報やIT技術を通して、その分野の基本的な資質を磨きます。
ゼミの概要	IT関連資格の取得に向けた知識と実技の習得と実践を行います。情報やITの技術動向調査研究を行います。学生が社会人になるための基本的な資質を磨きます。
ゼミの到達目標	社会人としての自覚・良識・思考を身に付ける。情報リテラシー能力を身に付ける。
授業時間外の学習	情報やITの技術動向に対して絶えず関心を持って調査研究する。多くのソフトウェアを使いこなす。
履修条件	コンピュータ入門やコンピュータ利用技術Ⅰ、情報システム管理論ゼミナールⅠを修得している学生が望ましい。
テキスト	情報やIT関連に関するプリント、資格取得のためのプリント
参考文献・資料	講義中に適宜紹介します。ITパスポート関連、日商PC検定関連、MS検定関連資料。
成績評価の方法	講義中に実施する実践的課題50%（知識問題・実技問題・レポート）、試験50%により判断します。課題は必ず提出することが前提。出席回数が規定に満たない場合は試験をうけることができません。出席確認時不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。
オフィスアワー	毎週 月曜日 16:10～17:50 金曜日 10:40～12:10 これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
学生へのメッセージ	大きな仕事をやりとげた人達からの教え等、学生たちがこれからの進路や人生をどのように歩んでいくべきか、今一度学生の皆さんと一緒に考えましょう。また、IT関連資格取得を目標にしましょう。

授業計画			
第1回	ゼミナールの概論	第17回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班調査研究
第2回	情報やIT関連の資格取得について	第18回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班調査研究
第3回	情報処理技術の応用的知識の習得① (コンピュータの構成要素) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題1)	第19回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班調査研究
第4回	情報処理技術の応用的知識の習得② (プロセッサとメモリ、記憶装置等) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題2)	第20回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班 中間発表準備
第5回	情報処理技術の応用的知識の習得③ (入出力インタフェース、知識問題確認) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題3)	第21回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班 中間発表準備
第6回	情報処理技術の応用的知識の習得④ (ソフトウェアの種類と構成、プログラミング言語) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題4)	第22回	ゼミ内各研究中間発表会
第7回	情報処理技術の応用的知識の習得⑤ (コンピュータの原理、基数変換、論理演算) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題5)	第23回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班 改善・改良
第8回	情報処理技術の応用的知識の習得⑥ (統計の基礎、アルゴリズムとデータ構造) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題6)	第24回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班 改善・改良
第9回	情報処理技術の応用的知識の習得⑦ (代表的な整列アルゴリズム、知識問題確認) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題7)	第25回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班 本番発表準備
第10回	情報処理技術の応用的知識の習得⑧ (マルチメディア、知識問題確認) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題8)	第26回	ゼミ内各研究発表会
第11回	情報処理技術の応用的知識の習得⑨ (データベース、データベース知識問題確認) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題9)	第27回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班 論文作成
第12回	情報処理技術の応用的知識の習得⑩ (コンピュータシステムの評価指標) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題10)	第28回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班 論文作成
第13回	情報処理技術の応用的知識の習得⑪ (ネットワークとプロトコル) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題11)	第29回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班 論文作成
第14回	調査研究のための概要 (グループ分けとテーマ説明)	第30回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班 論文作成
第15回	最新情報及びIT技術の調査研究班決め 秋田県の諸問題班決め	第31回	1年間の総括
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール II (アフリカの国際関係論ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	デファルコ・リーアアン		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日 4限	単位数	2単位


ゼミのテーマ	Understanding Your World (Let's go Africa!)
ゼミの概要	<p>下記のテーマについて日本語と英語で授業を行います。研究の範囲は一般的な理論実例にまでおよびます。複雑な考えを優しく発表します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際システムを理解するために様々な国際関係の理論を学びます。例えば) 現実主義、リベラリズム、社会構成主義。 2. 有名な著者「ジョン・ロック」「ジャンージャック・ルソー」「ニコロ・マキャヴェッリ」等の引用献を輪読します。 3. 「自由」と「正義」のようなテーマについて議論します。 4. アフリカの地理・歴史・政治等を学びます。興味を持っている国を選択し、レポートの提出を求めます。 5. 海外就職活動：海外の履歴書と面接等、海外で働くことに興味を持っている学生に役に立ちます。
ゼミの到達目標	<p>国際関係とアフリカに対する理解を広げることができる 海外の労働文化を学ぶことができる 国の行動を的確に分析できるようになる 政治と国際関係に対して、偉大な思想家の考えを要約できるようになる 就職活動の面接のために会話と批判的なスキルを磨くことができる</p>
授業時間外の学習	読書課題とレポート
履修条件	英検準二級 (トイック 500 点) レベルの英語能力が必要です。
テキスト	なし、資料を配布する
参考文献・資料	『リヴァイアサン』トマス・ホッブズ、『 <u>統治二論</u> 』ジョン・ロック等
成績評価の方法	英語で表現すること 20%、読書を完成されて議論できること 30%、レポート 30%、試験 20%
オフィスアワー	毎日の5時限目
学生へのメッセージ	海外で働きたいですか？アフリカの国際関係と海外の労働文化を学ぼう！

授業計画			
第1回	Seminar overview and explanation. Self-introduction. Personal goals and targets interview.	第17回	Update on studies, personal report
第2回	Africa map challenge!① Learning the countries in Africa! How many African countries do you know?	第18回	The 3 main theories of international relations: Theory 2 - Liberalism ①
第3回	Africa map challenge!② A brief history of Africa	第19回	The 3 main theories of international relations: Theory 2 - Liberalism ②
第4回	Africa map challenge!③ Discussing social contract theory Hobbs①	第20回	The 3 main theories of international relations: Theory 3 - Constructivism ①
第5回	Africa map challenge!④ Discussing social contract theory Hobbs②	第21回	The 3 main theories of international relations: Theory 3 - Constructivism ②
第6回	Update on studies, personal report	第22回	Update on studies, personal reports
第7回	Africa map challenge!④ Discussing social contract theory Locke①	第23回	Review and comparison of the 3 theories, discussion. Relevance to Africa.
第8回	Africa map challenge!⑤ Discussing social contract theory Locke②	第24回	On Freedom: What is freedom? Discussion
第9回	Africa Map Test Writing a resume in English	第25回	On Liberty: John Locke Discuss John Locke' s famous work
第10回	Looking for a job abroad	第26回	Update on studies, personal report
第11回	Update on studies, personal report English resume submission	第27回	Machiavelli: How to be a prince Discussing Machiavelli' s famous work
第12回	A world without a king? Applying social contract theory to Africa and international relations	第28回	Machiavelli: How to be a prince Discussing Machiavelli' s famous work
第13回	A world without a king? Applying social contract theory to Africa and international relations	第29回	レポート準備
第14回	The 3 main theories of international relations: Theory 1 - Realism ①	第30回	レポート準備、発表
第15回	The 3 main theories of international relations: Theory 1 - Realism ②	第31回	レポート発表
第16回	中間テスト	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ (表現文化ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	橋元志保		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日4限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	大学生にふさわしい教養を身につけるために、様々な国々の表現文化 (文学表現・音楽表現・映像表現他) に触れ、深く理解し、表現する力を涵養する。
ゼミの概要	文学のみならず、様々な国々の表現文化 (文学表現・絵画表現・音楽表現・映像表現他) に触れることで初めて、豊かな教養を身につけることができるだろう。本ゼミナールでは、日本や欧米の文学を題材に、小説や論理的な文章を楽しみながら読むことのできる、読解力を養いながら、音楽や絵画、映像といった表現文化に触れ、大学生にふさわしい教養を身につけることを目的とする。いくら専門的な知識を身につけても、精神的な成長を促す様々な文化に触れなければ、深い思考力や判断力は得られず、国際的に活躍する有為の人材となることは難しい。「博学の人は、常に自分自身の中に富を持っている」とギリシアの格言にもあるように、ぜひ大学生のうちに将来に役立つ精神的な富をしっかりと培ってほしいと考えている。
ゼミの到達目標	西洋及び日本の文化、名著に触れ、それを深く理解し、自分の考えを表現することができる。
授業時間外の学習	1. 授業で取り上げる小説や資料を、指定された頁まで必ず読んでおきましょう。難解な語句や漢字は必ず辞書でその意味を調べましょう。 2. 毎回課題プリントを配布しますので、授業内容を復習しながら記述し、提出してください。
履修条件	「文章の読み方」「小論文の書き方」「日本の文学」「福祉と文学」「旅と文学」のいずれかを履修し、単位を修得していることが望ましい。
テキスト	授業の際に、資料を配布する。
参考文献・資料	加藤周一『日本 その心とかたち』(徳間書店)・トインビー著 長谷川松治訳『世界の名著 61 歴史の研究』(中央公論社)・夏目漱石『漱石全集』第5巻(岩波書店)・シェイクスピア著 中野好夫ほか訳『筑摩世界文学大系 16 シェイクスピアⅠ』(筑摩書房) ユゴー著 井上究一郎訳『世界文学全集 9 レ・ミゼラブルⅠ』(河出書房新社) ほか
成績評価の方法	【主体的な学びの姿勢 (25%)、課題の提出 (25%)、試験 (50%)】の総合評価とします。 ① 出席回数が規定に満たない場合は、試験を受けることが出来ません。 ② 講義中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ③ 出席確認時に不在だった場合、原則としてその回は欠席とします。 【成績評価の基準】 秀 (100~90点)、優 (89~80点)、良 (79~70点)、可 (69~60点)、不可 (59~0点)
オフィスアワー	火曜日 14:40~16:10 木曜日 14:40~16:10 ※これ以外の時間帯は事前に予約してください。
学生へのメッセージ	優れた小説や評論を味読することで、読解力や思考力を養い、総合的な国語力を向上させることができます。また、例えば『ロミオとジュリエット』等は、素晴らしい映像を見ながら、楽しく皆で学んでいきます。国語が苦手な人、教養を身につけたい人、公務員を目指している人には、特にお勧めです。

授業計画			
第1回	表現文化とは何か 文学表現・音楽表現・映像表現について	第17回	文化とは何か 梅原 猛『日本文化論』を読む
第2回	日本文化の源流 東山魁夷『日本の美を求めて』を読む	第18回	日本の文化と西洋文明 トインビー『歴史の研究』を読む
第3回	日本文化の源流 井上 靖『天平の甍』を読む①	第19回	西洋文明の源流 ホメロス『イーリアス』を読む
第4回	日本文化の源流 井上 靖『天平の甍』を読む②	第20回	西洋文明の源流 ホメロス『イーリアス』とトロイ戦争
第5回	日本文化の源流 『源氏物語』と古都京都の魅力	第21回	西洋文明の源流 ホメロス『オデュッセイア』を読む
第6回	旅と文学 『平家物語』と古都鎌倉の魅力	第22回	古典世界の発見 シュリーマン自伝を読む
第7回	旅と文学 『奥の細道』と東北の魅力	第23回	欧米文学の名著を読む シェイクスピア『ロミオとジュリエット』①
第8回	小説の構造 芥川龍之介『羅生門』を読む	第24回	欧米文学の名著を読む シェイクスピア『ロミオとジュリエット』②
第9回	物語を語るのは誰か 芥川龍之介『藪の中』を読む	第25回	欧米文学の名著を読む シェイクスピア『ロミオとジュリエット』③
第10回	登場人物とは何か 芥川龍之介『蜜柑』『舞踏会』を読む	第26回	欧米文学の名著を読む シェイクスピア『マクベス』①
第11回	ストーリー・プロットとは何か 芥川龍之介『南京の基督』を読む	第27回	欧米文学の名著を読む シェイクスピア『マクベス』②
第12回	現代文学と戦争 『きけわだつみのこえ』を読む①	第28回	英国絵画と文学 『オフィーリア』と漱石『草枕』
第13回	現代文学と戦争 『きけわだつみのこえ』を読む②	第29回	英国絵画と文学 『ジェーン・グレイの処刑』と漱石『倫敦塔』
第14回	現代文学と戦後 百田尚樹『海賊と呼ばれた男』を読む①	第30回	音楽表現と思想 ベートヴェンの生涯と音楽
第15回	現代文学と戦後 百田尚樹『海賊と呼ばれた男』を読む②	第31回	音楽表現と思想 ベートヴェンの手紙と音楽
第16回	前期試験	第32回	後期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（キャリアプランニングⅡ）		
	ゼミ担当者名	横田 恵三郎		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日4限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	企業の採用活動開始まで残すところ1年を切る中で、キャリアプランニングの考え方と重要性を理解し、観光企業を進路に定める学生が円滑にキャリアの入口に立つことを目的とする。
ゼミの概要	バブル経済が崩壊して以降終身雇用制度は崩れ、雇用体系が多様化し、今や自分で自分のキャリア（仕事に焦点を当てた人生）を築いていかなければならない時代となった。就職活動もその線上にあります。充実した幸せな仕事や人生を送るためにキャリアプランニングの概念を学び、これまでの人生を振り返りつつ実際に目標と計画を立て、観光企業において確実にキャリア形成の出発点に立たないといけません。そこに向けキャリアプランニングを立てて具体的に演習を中心に実行していきます。
ゼミの到達目標	キャリアプランニングで立てた自己の目標の達成を第一義とします。
授業時間外の学習	進路予定の観光企業やその業界について日々情報の収集にあたること。
履修条件	ホテル、旅行会社、航空会社、鉄道会社等の観光企業に進路を定めた3年生
テキスト	その都度プリントを配付する。
参考文献・資料	その都度案内する。
成績評価の方法	定期試験50%、取組姿勢50%とし総合的に評価する。
オフィスアワー	火曜日午前中、木曜日午前中
学生へのメッセージ	ホテル、旅館、旅行会社、鉄道会社、航空会社等の観光企業に進路を定めた学生の皆さん、あっという間に来年3月を迎えます。そこで考え準備し始めては遅すぎます。目標を立ててしっかり自己分析し、計画的に取り組めば自ずと結果は付いてくるものです。さあ、時間を無駄にしないで早速真剣に取り組みましょう。

授業計画			
第1回	オリエンテーション① (トライアル参加) キャリアプランニングとは	第17回	グループディスカッション演習①
第2回	オリエンテーション②(トライアル参加) キャリアプランニングとは 個人面談	第18回	グループディスカッション演習②
第3回	自己紹介 個人面談	第19回	グループディスカッション演習③
第4回	業界・企業研究	第20回	観光企業担当者の講演①、レポート作成
第5回	職種研究	第21回	レポートの発表とディスカッション
第6回	業界・職種 研究発表①	第22回	キャリアプランニング演習①
第7回	業界・職種 研究発表②	第23回	キャリアプランニング演習②
第8回	自己分析、これまでの振り返り	第24回	キャリアの入口に向けて① 敬語の使い方
第9回	自己分析に基づく自己PRの作成演習	第25回	キャリアの入口に向けて② ビジネスマナーa
第10回	先輩の昨年度インターンシップ体験談 レポート作成	第26回	キャリアの入口に向けて③ ビジネスマナーb
第11回	レポートの発表とディスカッション	第27回	キャリアの入口に向けて④ グループ面接演習
第12回	一般常識、時事問題	第28回	キャリアの入口に向けて⑤ グループワーク演習
第13回	履歴書作成演習①	第29回	キャリアの入口に向けて⑥ 個人面接演習 a
第14回	履歴書作成演習②	第30回	キャリアの入口に向けて⑦ 個人面接演習 b
第15回	まとめ	第31回	まとめ
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験